

2018年度大学「総合人間科学」保健福祉学部カリキュラムマップ

			単位数		大学の学位授与の方針(DP)					
			必修	選択	DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
					1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教学(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教学(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎				○	
		キリスト教と文化		1	◎				○	
		キリスト教と現代		1	◎				○	
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎					
		チームスポーツ		1	◎				◎	
		生涯スポーツ		1	◎				◎	
女性史			1	◎						
共生社会とジェンダー			1	◎						
保健福祉学部共通科目	基礎教養	保健福祉学入門	1		◎			○	○	
		文学		2	◎					
		日本国憲法		2	◎					
		生物と生命科学		2	◎					
		数学リテラシー		1	◎					
		こころと人間		2	◎					
		経済学入門		2	◎					
		生活の中の化学		2	◎					
		人生と哲学		2	◎					
		法学		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎					○	
	アカデミックスキル	基礎英語		1	◎					
		英会話入門		1	◎					
		実用英語コミュニケーション		1	◎					○
		中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
		ハングル入門		1	◎					○
		ハングル発展		1	◎					○
		日本語表現法		1	◎					○
		メディアリテラシー		1	◎					○
情報処理基礎			1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
	高齢者支援学Ⅰ		1	○			◎	○		
キャリア形成支援	キャリア開発	2		◎						
	ライフイベントとキャリア支援 実践キャリアプランニング		1	◎				◎		

2018年度大学「総合人間科学」人文学部カリキュラムマップ

			単位数		大学の学位授与の方針(DP)					
			必修	選択	DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
					1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教学(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教学(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎				○	
		キリスト教と文化		1	◎				○	
		キリスト教と現代		1	◎				○	
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎					
		チームスポーツ		1	◎				◎	
		生涯スポーツ		1	◎				◎	
女性史			1	◎						
共生社会とジェンダー			1	◎						
人文学部共通科目	基礎教養	人文学入門	1		◎				○	
		文学		2	◎					
		日本国憲法		2	◎					
		生物と生命科学		2	◎					
		数学リテラシー		1	◎					
		こころと人間		2	◎					
		経済学入門		2	◎					
		生活の中の化学		2	◎					
		人生と哲学		2	◎					
		法学		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎					○	
	アカデミックスキル	中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
		ハングル入門		1	◎					○
		ハングル発展		1	◎					○
		フランス語入門		1	◎					○
		フランス語発展		1	◎					○
		日本語表現法		1	◎					○
		メディアリテラシー		1	◎					○
		情報処理基礎		1	◎					○
情報処理演習			1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎				○		
	地域プロジェクト		1	◎				◎		
	北九州の技と文化 ボランティア概論		1	◎						
キャリア形成支援	キャリア開発	2		◎						
	ライフイベントとキャリア支援 実践キャリアプランニング		1	◎				◎		

## 看護学科

## 学位授与の方針 (DP)

看護学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士（看護学）の学位を授与します。

## DP1【知識・理解】

- 1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。  
1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。

## DP2【思考・判断】

- 2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。

## DP3【関心・意欲】

- 3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲をもっている。  
3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲をもっている。

## DP4【態度】

- 4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。  
4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。  
4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。

## DP5【技能・表現】

- 5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。  
5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

## 教育課程編成・実施の方針 (CP)

## 【専門教育科目】

- 看護学科の教育課程は、看護実践者の育成を目的として、総合人間科学と専門教育の「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の統合」「看護の発展」で構成する。
- 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得および態度を育成するとともに、看護に関わる倫理観を養う。
- 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。
- 「看護実践の統合」では、これまでの段階的・系統的な知識を統合し、社会の変化に対応する力を養い、健康支援に関わる人々と連携・協働する能力を育成する。
- 「看護の発展」では、地域包括ケアおよび看護キャリア形成と看護実践を柱におく。地域包括ケアでは、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。また、看護キャリア形成と看護実践では、女性として自立し、生涯を通じて社会貢献する態度を育成する。
- 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（看護）を取得できる。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護学を学ぶための基礎	看護形態機能学Ⅰ	2	4								◎	○								
	看護形態機能学Ⅱ	2		4							◎	○								
	臨床栄養学	2				2					◎	○		○						
	感染と免疫	2		3							◎	○								
	疾病学総論	1			2						◎	○								
	疾病学各論Ⅰ	2				4					◎	○								
	疾病学各論Ⅱ	1					2				◎	○								
	看護のための臨床検査	1					2				◎	○								
	薬理学	2				2					◎									
	保健統計学	2				2					◎	○								
	社会保障概説	2				2					◎		○							
	家族と健康	2					2				◎	○								
	対人関係論	1			2						○	◎	○							
	発達心理学	1					2				○		◎							
	臨床健康心理学		1					1			○		◎							
	医療と倫理		1			1						◎				○				
健康教育論	1					1					◎	○								
看護学	看護学概論	2		2							○	◎		○	○	○				
	看護理論		1				1					◎	○							
	看護倫理	1					1				○	◎				○				

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護実践の基盤	看護技術論	1	2								○	◎		○	○	○		○		
	生活援助技術論演習	3		6								◎	○			○	○			
	診療関連技術論演習	1			2							◎	○			○	○			
	フィジカルアセスメント技術演習	1		2								◎	○				○			
	看護過程論	2			4							◎	○			○	○			
	基礎看護学実習Ⅰ	1			実習							○	○	○	○	○	○		◎	
	基礎看護学実習Ⅱ	2			実習							○	○	○	○	○	○		○ ◎	
	公衆衛生看護学概論	2		2								◎	○		○					
看護実践の応用	小児看護学概論	1			1						○	◎								
	小児看護学方法論	2				2					○	◎		○				○		
	小児看護学演習	1					2				○	○					◎			
	小児看護学実習	2						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○ ◎	
	母性看護学概論	1			1						○	◎	○							
	母性看護学方法論	2				2					○	◎		○						
	母性看護学演習	1					2				○	○			○	◎				
	母性看護学実習	2						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○ ◎	
看護実践の応用	成人看護学概論	1			1							◎	○	○						
	成人慢性期看護学方法論	2				2					○	◎		○						
	成人急性期看護学方法論	2				2					○	◎		○						
	成人看護学演習	2					4				○	◎	○	○	○	○				
	成人慢性期看護学実習	3						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○ ◎	
	成人急性期看護学実習	3						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○ ◎	
	老年看護学概論	1			1							◎	○		○	○				
	老年看護学方法論	2				2					○	◎		○						
	老年看護学演習	1					2					○	○			◎				
	老年看護学実習Ⅰ	2						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○ ◎	
	老年看護学実習Ⅱ	1						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○ ◎	
	精神看護学概論	1				1						◎	○							
	精神看護学方法論	2				2						◎	○		○					
	精神看護学演習	1					2					○	○			◎				
精神看護学実習	2						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○ ◎		
看護実践の統合	在宅看護学	2					2				○	◎		○						
	在宅看護学演習	1					2					○		○		◎				
	在宅看護学実習	3						実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	○ ◎	
	看護マネジメント総論	1				1						◎	○		○	○				
	看護研究	1					2					○	◎					○		
	看護研究演習		3						2	4			◎				○	○		
	看護総合演習	1						1	1				◎	○	○		○	○		
	看護総合実習	2							実習	実習			○	○	○	○	○	○	○ ◎	

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
看護学特論		1							1				◎					○		
地域包括ケア 看護の発展	地域連携協働支援論	1			1					○		○		◎						
	地域生活支援論	1					2				○	○		◎				○		
	緩和・がん看護学	1					2				○	◎	○	○						
	NPO論	1	1									○		◎				○		
	看護キャリア形成論	1			1								◎		○			○		
	災害看護学	1							1		○	○		◎	○	○				
	国際保健論		1			1				○	○		◎							
	ウイメンズヘルス		1				1				○	◎	○							
	クリティカルケア看護学		1						2		○	◎	○		○	○	○			
看護マネジメント論		1						1		○	◎	○	○	○			○			
公衆衛生看護関係科目	疫学	2	2			2						◎	○							
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	2	2			2					○	◎		○			○			
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	2	2			2						◎		○			○			
	対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ	1	1			1					◎	○		○			○			
	対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ	2	2			2						◎		○			○			
	保健医療福祉行政と政策	1	1				1				◎	○		○						
	公衆衛生看護活動演習	2							4				○		○	○	◎	○		
	公衆衛生看護管理論	2							2			◎		○	○	○	○	○		
	公衆衛生看護学実習	5							実習 実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
看護に関する科目	学校保健	2	2			2						◎	○		○					
	看護概説	2	2			2						○	◎		○		○			
	健康相談	2	2				2					○	◎				○			
										◎	1	34	22	3	4	0	6	0	1	11
										○	10	22	51	21	40	29	29	23	11	0
										計	11	56	73	24	44	29	35	23	12	11

# 看護学科

## 学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】  
 1-1) 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけている。  
 1-2) 看護学分野での基礎的知識を修得している。
- DP2【思考・判断】  
 2-1) 健康上の課題を解決するため、身体的・心理的・社会的な状態を把握し、論理的に思考・判断できる。
- DP3【関心・意欲】  
 3-1) 社会の看護・医療ニーズの変化に対応して、自ら学び続ける意欲を持っている。
- DP4【態度】  
 4-1) 看護専門職としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。  
 4-2) 保健・医療・福祉の総合的視野から、健康支援に関わる人々と協働・連携する姿勢を身につけている。
- DP5【技能・表現】  
 5-1) 看護の対象と適切なコミュニケーションを図り、援助的関係を形成することができる。  
 5-2) 看護の対象に必要な看護ケアを提供することができる。

## 教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 看護学科カリキュラムは、看護専門職育成を目的として、全学科共通科目の総合人間科学と専門教育科目「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」「看護実践の応用・展開」「看護実践の統合」「看護実践の充実」で構成する。
- 総合人間科学では、「文化と宗教」「心身と健康」「環境と情報」「国際社会と現代」に関する科目を含み、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養を身につける。
- 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基本」では、看護の対象である人々を総合的に理解し看護を実践するための基礎的知識・技術の修得及び態度を育成するとともに、保健・医療に関する倫理観を養う。
- 「看護実践の応用・展開」では、あらゆる健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に必要な看護ケアを提供する能力を育成する。
- 「看護実践の統合」「看護実践の充実」では、段階的・系統的な学習の集大成として位置づけ、社会の看護・医療ニーズの変化に対応する力を養うとともに、保健・医療・福祉の総合的視野に立ち、関連職種と連携・協働する能力を育成する。また、生涯を通して主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。
- 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状を取得できる。

科 目	選 択	(高 一 種 護 免)	養 教 一 種 免	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 5-1	DP 5-2
				1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次										
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
教職概論	2	2	2		2							○								
教育原理	2	2	2		2							○								
教育心理学	2	2	2		2							○	○							
教育社会学	2	2	2		2							○								
教育課程論	2	2	2		2							○								
特別活動論	2	2	2				2					○								
教育方法論	2	2	2				2					○								○
看護教科教育法Ⅰ	2	2	2				2						○		○					○
看護教科教育法Ⅱ	2	2	2						←	→				○	○	○				○
学校保健教育法	2	2	2				2							○	○	○				○
道徳教育の理論と実践	2	2	2		2							○								○
生徒・進路指導論	2	2	2				2					○								
生徒指導論	2	2	2				2					○								
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2		2							○								○
事前及び事後の指導	1	1	1						←	→				○	○	○				○
教育実習Ⅰ	2	2	2						←	→				○	○	○	○			○
養護実習	4	4	4						←	→				○	○	○	○			○



# 福祉学科

## 学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】  
1-1) 豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。  
1-2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。
- DP2【思考・判断】  
2-1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。  
2-2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。
- DP3【関心・意欲】  
3-1) 人びとのいのちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心を持つ。  
3-2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探求しようとする意欲がある。
- DP4【態度】  
4-1) 社会の一員としての自覚を持ち、責任を持って行動できる。  
4-2) 人びとの異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。  
4-3) 自らを成長させるための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。
- DP5【技能・表現】  
5-1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。  
5-2) 対人援助職としての基本的な専門的スキルを身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 福祉学科は、福祉・養護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成される。
- 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・養護教諭コースでは、同時に精神保健福祉士国家試験受験資格、養護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格が取得できる。
- 福祉学科カリキュラムは、教養科目を基盤として専門教育科目は、「福祉基礎科目」「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」「専門研究科目」と教職に関する科目で構成する。
- 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基礎的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。
- 「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」及び教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門職としての態度を育成し倫理観を養う。
- 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

科 目	必 選	開講時期・選授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
		1年次		2年次		3年次		4年次															
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
	修 括									1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2			
ヒューマンサービス基礎演習	1		2							ヒューマンサービスの専門家として必要な3つの基礎的能力を形成する。 ① 自分表現する力を形成する。 ② コミュニケーションを通して関係をつくる力を形成する。 ③ 人と協力して物事を進める力を形成する。													
基礎実習	2	2	2							1. 実習生としての心構え・マナーについて理解し、実践できる。 2. 実習に向け手続手帳について理解し、実行できる。 3. 利用者との関係形成の方法について理解し、実践できる。 4. 実習施設での具体的な支援について理解し、実践できる。													
福祉入門	2	2								1. 福祉を学ぶ意義について理解できる。 2. 福祉への興味・関心を高め、自ら学びを深めることができる。	○	○	○	○	◎	◎	○	○	◎				
現代社会と福祉	4				2	2				1. 現代社会における福祉制度と福祉政策について理解し、説明できる。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、説明できる。 3. 福祉制度の発達過程について理解し、説明できる。 4. 福祉政策における必要と資源、課題について理解し、説明できる。 5. 福祉政策の構成要素と関連政策について理解し、説明できる。 6. 相談援助活動と福祉政策の関係について理解し、説明できる。													
社会学概論	2		2							(1) 社会学による社会理解の基本的方法を理解できる。 (2) 統計データ等の資料から社会の様子を読み取ることができる。 (3) 社会学における思想や方法論の変遷を理解できる。 (4) 現代社会の課題を整理し、それを把握するための社会学的方法と結びつけることができる。	◎		○										
社会調査の基礎	2					2				1. 社会調査の意義と目的 2. 統計法の基礎 3. 量的データとその方法 4. 質的データとその方法 5. 社会調査を支援する技術と道具 6. 社会調査における倫理と個人情報保護	◎		○	○									
相談援助の基盤と専門職	4	2	2							1. 社会福祉士、精神保健福祉士の役割と意義について説明できる。 2. 相談援助の概念と範囲について説明できる。 3. 相談援助の理念と権利擁護の意義と範囲について説明できる。 4. 相談援助に係る専門職と専門職倫理について説明できる。 5. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携について説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○					
相談援助の理論と方法Ⅰ	4			2	2					1. 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について説明できる。 2. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について説明できる。 3. 相談援助におけるめざすべき援助関係の形成について説明できる。 4. 相談援助における援助関係形成上生じる問題について考察することができる。 5. 相談援助のための面接技術について説明し、活用することができる。					○								
相談援助の理論と方法Ⅱ	4					2	2			1. 様々な生活上の問題を人と環境との交互作用の中で生じる事象として考察することができる。 2. 相談援助の対象となるクライアントシステムについて説明できる。 3. 地域生活の維持を可能にする社会資源の活用・調整・開発、ネットワークキングについて説明できる。 4. 様々な実践モデルやアプローチの特徴について説明できる。 5. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 6. 相談援助の事例を通して、総合的かつ包括的な相談援助の実践方法について考察することができる。			○	◎	○	○	○	○					
地域福祉論	4			2	2					1. 地域福祉の基本的な考え、地域福祉の主体と対象を理解できる。 2. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解できる。 3. 住民参加の意義と方法について理解できる。 4. ネットワークキングの意義と方法及びその実際、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法と実際について理解できる。 5. 地域トータルケアシステムの構築と実際について理解できる。 6. 福祉サービスの評価方法について理解できる。 7. 地域福祉の課題とこれからの地域福祉のあり方について理解できる。				◎	◎	○	○	○	○				
福祉行財政と福祉計画	2					2				福祉行財政と福祉計画について理解し、その仕組みを説明できる。 2. 福祉行政について理解し、説明できる。 3. 福祉財政について理解し、説明できる。 4. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割について理解し説明できる。 5. 福祉計画の目的と意義について理解し、説明できる。 6. 福祉計画の理論と技法について理解し、せつめいできる。 7. 福祉計画の実際について理解し、説明できる。	◎			○		◎	○	○					
福祉経営論	2						2			1. 福祉サービスにおける経営の必要性と、社会福祉士の役割について理解し、説明できる。 2. 福祉サービスにかかわる組織や団体について理解し、説明できる。 3. 福祉サービスの組織と経営の基礎理論について理解し、説明できる。 4. 福祉サービスの管理運営の方法について理解し、説明できる。	○	◎	◎		○								
社会保険論	4			2	2					1. 社会保険の概念・対象・体系について説明できる。 2. 社会保険制度と民間保険制度の関係について説明できる。 3. 社会保険制度を中心とした社会保険制度の具体的な内容について説明できる。 4. 社会保険の行財政について説明できる。 5. 少子高齢化をはじめとする、現代社会における社会保険制度の課題を認識し、その課題について考察できる。			○	◎									
高齢者福祉論	4			2	2					1. 高齢者の生活実態及びこれを取り巻く社会環境について理解し、説明できる。 2. 高齢者保健福祉制度の展開過程について理解し、説明できる。 3. 介護保険制度の仕組みとその他の高齢者福祉の制度について理解し、説明できる。 4. 高齢者支援に係る組織・団体・専門職の役割及び支援の実際について理解し、説明できる。 5. 高齢者の持つ身体・精神・社会的特性について理解し、説明できる。 6. 介護の概念と対象について理解し、説明できる。 7. 介護過程や介護支援の基本的考え方と視点について理解し、説明できる。 8. 介護の技法（認知症のケア、終末期ケア、住環境整備を含む）について理解し、説明できる。	◎	◎	○			○	○						
障害者福祉論	2				2					1. 障害のある人の福祉の理念や概念について理解する。 2. 障害のある人の生活実態とニーズについて理解する。 3. 障害のある人の福祉制度の歴史的背景と今日の状況について理解する。 4. 障害のある人についての法や関連する法制度と自立支援について理解する。 5. 支援サービスの提供と相談援助の方法と制度など理解する	◎	◎			○								

科目	必修	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
		1年次		2年次		3年次		4年次															
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
専門科目	子ども家庭福祉論	2			2					1. 現代社会と子どもと家庭について理解する。 2. 子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の進展の歴史について理解する。 3. 子ども家庭福祉の法制度について理解する。 4. 子ども家庭福祉に関する福祉と保健について理解する。 5. 子ども家庭への援助活動の在り方について理解する。	◎	◎		○									
	公的扶助論	2				2				1. 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉政策と実際について理解できる。 2. 生活保護法の原理・原則、保護の種類と内容、手続、管理運営体制について理解できる。 3. 生活保護制度における専門職の役割と他職種との連携について理解できる。 4. 低所得者層・ホームレスに対する諸施策について理解できる。 5. 自立支援プログラムの目的と実際について理解し、低所得者層の自立のあり方について考察できる。	◎	◎	○										
	医療福祉論	2			2					1. 保健医療サービスの総合的な理解とその活用を図れる知識・技術を身につけることができる。 2. 保健医療領域における専門職の意義と役割を理解できる。	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
	就労支援サービス論	2					2			1. 就労支援の必要性と社会福祉士の役割について理解し、説明できる。 2. 雇用・就労の動向と施策について理解し、説明できる。 3. 障害者・低所得者への就労支援サービスについて理解し、説明できる。 4. 就労支援にかかわる専門職の役割について理解し、説明できる。 5. 就労支援にかかわる基礎知識を用いて、就労支援について実践的に考えることができる。	○	◎	◎										
	権利擁護論	2					2			1. 相談援助活動において必要な知識となる憲法・民法・行政法の基本について理解できる。 2. 成年後見制度・日常生活自立支援事業を中心とした、権利擁護に係る諸制度について理解できる。 3. 社会的に支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際ならびに権利擁護に係る各組織・団体および専門職の役割および責任について理解できる。			◎	○									
	司法福祉論	2					2			1. 更生保護の対象者も社会の一員である、ということを確認できる。 2. 更生保護制度の概要について説明できる。 3. 更生保護制度における関係機関の連携・協働について説明できる。 4. 更生保護・司法福祉の現状と課題について認識し、考察できる。			◎	○									
	社会福祉の歴史と思想	2			2					1. 近代日本における社会福祉の生成の概要を学ぶ。 2. 貧困救済、監獄改良、感化教育、廃娯運動、セツメント運動から労働運動等代表的な社会福祉思想について参考文献や配布資料、ビデオ等を通じて学ぶ。 3. 社会福祉先駆者の思想からソーシャルワークの価値について考察する。 4. 特定の人物について選び、その実践と思想をより深く主体的に学ぶ。	◎			○									
	介護技術演習	2			2					1. 安全で快適な生活環境の必要性を理解し、実際に展開できる。 2. 日常生活における基本介護の技術を理解し、実際に展開できる。 3. 緊急時の対応について理解し、実際に展開できる。			○							◎	◎		
	家庭支援論	2					2			1. 家庭の意義と機能について理解する。 2. 子育て家庭をとりまく社会的状況について理解する。 3. 子育て家庭の支援体制について理解する。 4. 生活上の問題を抱えた家庭の状況をアセスメントし、ニーズに応じた支援の展開と関係機関との連携について考察することができる。				◎									
	スクールソーシャルワーク論	2					2			1. スクールソーシャルワーカーの必要性が説明できる。 2. スクールソーシャルワーカーの専門的役割や実践活動内容が説明できる。	○	○	◎	◎	○	○							
専門科目	相談援助演習Ⅰ	1			2					1. 相談援助演習の体系、それぞれの内容と位置づけについて理解できる。 2. 現在生じている福祉的課題・問題（児童虐待、ホームレス、高齢者虐待、痴呆、引きこもりなど）について理解し説明できる。 3. 社会福祉士の活動領域・場、そこでの具体的な支援内容、役割について説明できる。 4. 社会福祉士としての価値・倫理について理解し、説明できる。 5. 自分自身の価値観や思考傾向に目を向け、対人援助場面における自己覚知の役割について説明できる。 6. 基本的なコミュニケーション技術について理解し、活用できる。			◎	◎	◎	○	○	◎					
	相談援助演習Ⅱ	1			2				1. 相談援助の展開過程における課題と留意点を理解し、面接技術を活用できる。 2. 相談援助の専門職として求められる価値・実践の原則について理解し、活用できる。 3. 利用者の生活状況を包括的に理解する視点と方法について理解し、活用できる。 4. 利用者の生活状況に介入する方法について理解し、活用できる。 5. 相談援助の視点について理解し、活用できる。			◎	○	○					○	◎			
	相談援助演習Ⅲ	1			2				1. 相談援助の対象者及び地域が抱える課題とその社会的背景について理解できる。 2. 相談援助の展開過程について理解し、実践できる。 3. 相談援助で活用される知識・技術について理解し、実践できる。 4. 相談援助の実践モデル・アプローチについて理解し、実践できる。 5. 相談援助を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎			
	相談援助演習Ⅳ	1			2				1. 相談援助の対象者及び地域が抱える課題とその社会的背景について理解できる。 2. 相談援助の展開過程について理解し、実践できる。 3. 相談援助で活用される知識・技術について理解し、実践できる。 4. 相談援助の実践モデル・アプローチについて理解し、実践できる。 5. 相談援助を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎			
	相談援助演習Ⅴ	1			2				1. 相談援助の対象者及び地域が抱える課題とその社会的背景について理解できる。 2. 相談援助の展開過程について理解し、実践できる。 3. 相談援助で活用される知識・技術について理解し、実践できる。 4. 相談援助の実践モデル・アプローチについて理解し、実践できる。 5. 地域福祉の基盤整備と開発に係る知識・技術について理解し、実践できる。 6. 地域福祉（活動）計画の策定や福祉サービス評価の手法について理解できる。 7. 相談援助を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる。	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎				
	相談援助実習指導Ⅰ	2								1. 相談援助実習および相談援助実習指導の意義、目的について理解する。 2. 相談援助実習を行う各実習分野および施設・機関について理解を深める。 3. 相談援助実習に臨むうえで必要な姿勢・心構えを身につける。 4. 実習施設で必要とされる知識・援助技術について理解する。			◎	◎	◎	○	○	◎	◎				
	相談援助実習指導Ⅱ	4				2	2			1. 相談援助に係る知識・技術の体系的な理解を深め、実践的に体得する。 2. 相談援助に係る知識・技術を実際に活用し、相談援助に必要な資質・技能を習得する。 3. 職業倫理を身に付け、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができる。 4. 相談援助実習に向けた準備・手続・実習の学習について理解する。 5. 相談援助実習での体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を養育する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
	相談援助実習	4								1. 実習を通して相談援助に係る知識と技術について実践的に理解し、体得する。 2. 社会福祉士として求められる資質・技能、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 3. 職業倫理を身に付け、社会福祉士としての自覚に基づいた行動ができる。 4. 関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的な内容を理解し、実践できる。 5. 実習での具体的な体験や活動を通して、援助技術を概念化し、理論化することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
	専門科目	精神保健福祉に関する制度とサービス	4			4					1. 精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて説明できる。 2. 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について説明できる。 3. 精神障害者の支援において係わる施設・団体・関係機関等について説明できる。 4. 更生保護制度と医療観察法について説明できる。 5. 社会資源の調整・開発に係る社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解し説明できる。	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○		
		精神障害者の生活支援システム	2			2					1. 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解し説明できる。 2. 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解し説明できる。 3. 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の中活動支援を含む）について理解し説明できる。 4. 行政機関における精神保健福祉の相談援助活動について理解し説明できる。	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○			
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		2			2					1. 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解し説明できる。 2. 精神障害者の相談援助に係る専門職の理念と範囲について理解し説明できる。 3. 精神障害者の相談所における権利擁護の意義と範囲について理解し説明できる。 4. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解し説明できる。			◎										
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ		4			4					①精神保健福祉の歴史の変遷が説明できる。 ②精神科リハビリテーションの理念・プロセスが説明できる。 ③相談援助のプロセス及び対象者との援助関係のイメージを説明できる。			◎	◎	○	○	○	○	○				



科目	必修	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
		1年次		2年次		3年次		4年次													
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
目 係 目 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	4							4		1. 精神保健福祉相談援助活動の展開が説明できる。 2. 地域を基盤とした相談援助の説明ができる。 3. 地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開が説明できる。 4. 専門職である精神保健福祉士の意義と役割が説明できる。 5. 精神保健福祉士の実践場が想定でき、具体的相談援助のイメージを説明できる。											
	4							4		1. 精神障害に起こりやすい症状(精神症状)とそれを表現する術論を理解し、内容を説明できる。 2. 精神障害の各々について理解し、その内容を説明できる。 3. 精神障害の治療、社会復帰および社会資源の活用について理解し、その内容を説明できる。	◎	◎									
	1							2		相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に理解できる。 専門的援助技術を概念化し体系立てていくことができる。	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	
	1							1		1. 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し説明できる。 2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し実践できる。 3. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。			○	◎							◎
	1							1		1. 精神障害者の生活や生活上の困難について把握し説明できる。 2. 精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について習得し実践できる。 3. 専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	
専 門 目 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2							1		1. 精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。 2. 精神障害者の置かれている現状及び、生活上の困難について理解できる。 3. 精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的な理解し実践的な技術等を体得する。 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	
	4							2	2	精神保健福祉援助実習の意義について理解できる。精神障害者の置かれている現状及び、生活上の困難について理解できる。精神保健福祉援助に係る知識と技術について、具体的な実践的な理解し実践的な技術等を体得する。精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	◎	
	2							1		1. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的な実践的な理解し実践的な技術等を体得する。 2. 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握し説明できる。 3. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。 4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解できる。	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	
	2							1		1. 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成することができる。 2. 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成について理解し説明できる。 3. 利用者やその関係者(家族、親族、友人等)との支援関係の形成について理解し説明できる。 4. 利用者やその関係者(家族、親族、友人等)への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価について理解し説明できる。 5. 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践について理解し説明できる。 6. 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務について理解し説明できる。 7. 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について理解し説明できる。 8. 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実践について理解し説明できる。 9. 当該実習先が地域社会の中での施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関して理解し説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	
	2							2		1. 精神障害者の生活支援の意義、特徴が説明できる。 2. 精神障害者の居住支援や、就労支援について実践と制度施策両面から説明ができる。 3. 地域においての精神保健福祉士としての活動が、具体的なイメージをもって説明できる。	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	
専 門 目 心理学概論Ⅰ	2	2								1. 心理学とは何か、心理学の目指すもの、人間性のモデル、問題提起と実験法について説明できる。 2. 発達心理学の観点から、人生の各時期の発達特徴について説明できる。 3. パーソナリティとは何か、特性論、類型論、精神動機論、人間学的理論、学習理論などの人格心理学の概要について説明できる。 4. 個人差の理解、人格の測定、知能検査など、臨床心理学の心理アセスメントの概要について説明できる。 5. ストレス、精神疾患の問題、心理学的方法による行動変容など、臨床心理学の心理学的援助の概要について説明できる。 6. 集団規範、リーダーシップ、獲得と態度変化など、社会心理学の概要について説明できる。	◎	◎									
	2		2							1. 神経系の仕組み、情報の入力と体側化などの神経心理学の概要について説明できる。 2. 学習とは何か、条件づけ、行動の制御、社会的学習理論など、学習心理学の概要について説明できる。 3. 記憶と忘却の仕組み、言語の性質、言語の発達、推論と問題解決など、認知心理学の概要について説明できる。 4. 動機づけ、情動などの感情心理学の概要について説明できる。 5. 発達の研究手法、各機能の発達的変容、発達心理学の概要について説明できる。	◎	◎									
	1		2							1. 認知行動療法の歴史、意義、適用を説明できる。 2. 認知行動療法の基本的な考え方、技法、支援過程を説明できる。		○	◎								
	1			2						1. 各種発達検査や知能検査の土台となる理論を理解し、今後の学習に活かすことができる。 2. 検査実施のための技術の基本を身につけ、実践に活かすことができるように努力を始める。			◎							◎	
	1				2					福祉臨床心理実習Ⅳでは、高齢者領域におけるアセスメントと臨床心理学のアプローチについて実技やディスカッションを通して学習を深める。 1. 高齢者対象とする福祉臨床心理学の課題について説明できる。 2. 高齢者、認知症高齢者のアセスメントの実践、心理療法の実際について説明できる。 3. 各アセスメント、心理療法についての理解を深め、福祉専門職の視点からの実践的対応について説明できる。										◎	
専 門 目 発達心理学Ⅰ	2		2							1. 胎児期の発達特徴について説明できる。 2. 各機能の発達過程と発達性任務について説明できる。 3. 発達と脳との関係について説明できる。 4. 代表的な発達理論(フロイトの心理学的発達論、ピアジェの発達理論、ヴィゴツキーの発達理論、プルーナーの発達理論、エリクソンの発達理論)について説明できる。 5. 発達段階と発達課題について説明できる。 6. 発達の研究手法について、それぞれ対比させながら説明できる。	○	◎									
	2			2						1. 生涯発達心理学の成り立ちと研究方法について説明できる。 2. 発達段階と発達課題について説明できる。 3. 青年期以降の身体的特徴、知覚、運動機能、認知機能などの身体機能の発達について説明できる。 4. 青年期以降の知能、記憶、思考、創造性などの認知機能の発達について説明できる。 5. 青年期以降のパーソナリティの発達について説明できる。 6. 青年期以降の家庭生活、職業生活に関連する自己の発達について説明できる。	○	◎									
	2				2					1. 自閉症スペクトラム障害のある人たちの特徴について、認知、情動、コミュニケーション、社会的スキルから説明できる。 2. 自閉症スペクトラム障害のある人に対する援助法である「対人関係発達指導法(RDI)」の概要について説明できる。 3. 自閉症スペクトラム障害のある人への他の援助法と「対人関係発達指導法(RDI)」との違いについて説明できる。	◎	○									
	2					2				1. 割り当てられた実践研究の内容についてまとめ、報告できる。 2. 報告された研究について、積極的に意見を述べ、ともにディスカッションをし、研究に対する理解を深める。 3. 報告・グループ討議を通して、発達臨床心理学の実践に活かす努力を始める。			◎	○						○	
	2						2			1. 障害の定義(医学・福祉・教育的立場からの定義)を整理して説明できる。 2. 視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、重篤・重傷障害者、病弱障害者、発達障害者の心理特性の理解と心理的援助の在り方について説明できる。 3. 障害受容の諸説を理解し、障害者及び家族の心理状態に応じた援助について説明できる。	◎	○									
専 門 目 福祉心 臨床心理学概論	2		2							1. 臨床心理学の定義、歴史、現状の概要について説明できる。 2. 臨床心理学の概説となっている理論を理解し説明できる。 3. 発達理論とその臨床への応用について、その概要を説明できる。 4. 対象を理解する上でのパーソナリティ理論と発達理論が果たす役割を理解し説明できる。 5. 臨床心理学的援助における心理アセスメントの視点について理解し、心理アセスメントの具体的な実践的対応について説明できる。	○	◎									

科 目	必修	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
		1年次		2年次		3年次		4年次														
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
		1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2												4-3	5-1
教 育 科 理 臨 床 開 係 科 目	カウンセリング論	2		2						1. カウンセリングの基本構造について説明できる。 2. 様々なカウンセリングの形態に共通する主要なカウンセリングの段階とプロセスについて説明できる。 3. 代表的な4つのカウンセリングの立場とそのプロセスについて説明できる。		◎	◎		◎					◎		
	社会心理学	2				2				1. 社会的な存在としての人間について説明できる。 2. 人間に影響を与える社会的要因およびその影響の結果について説明できる。 3. 社会心理学の各領域における理論を説明できる。 4. 社会心理学の各領域における実験・調査の手続きとその結果を説明できる。	◎			○								
	家族心理学演習	2					2			1. わが国における家族の変化を説明できる。 2. システム論に基づく家族理解を深め、説明できる。 3. 家族の発達段階において抱えやすい問題を理解し、個々の問題への支援の方法を設計できる。 4. 家族の問題解決を家族と共に進めることができるような基本的な態度とスキルを獲得する。	◎	○	○		◎							
	カウンセリング演習	1					2			1. 心理カウンセリングの定義、アプローチ、学び方について理解している。 2. 心理カウンセリングの基本的態度を修得しようとする努力ができる。 3. 心理カウンセリングの技術の質を向上させるための方法を理解し、それに向けて努力することができる。			○	○			◎				◎	
	健康臨床心理学	2					2			1. 健康心理学と健康臨床心理学の目的と課題を説明したり、知識を整理することができる。 2. 健康臨床心理学の基礎となる諸理論を説明したり、実践に活かす視点を説明できる。 3. 臨床場における心理支援の展開を説明できる。		◎	○		○							
	スクールカウンセリング論	2						2			1. 「スクールカウンセラー事業」の概要について説明できる。 2. 学校で行うカウンセリングの特徴について説明できる。 3. スクールカウンセラーと教員、教育委員会等他職種との連携について説明できる。			◎	◎							
	医学総論	4			4						1. 人の成長・発達について説明できる。2. 人体の構造と機能(心身機能と身体構造)について説明できる。3. 各種の疾患の成り立ちについて説明できる。4. 障害について具体的に説明できる。5. リハビリテーションについて具体的に説明できる。6. 国際生活機能分類(ICF)について具体的に説明できる。7. 健康と疾病を病む健康対策について具体的に説明できる。	◎										
保 健 ・ 医 療 開 係 科 目	微生物学	2		2						1. 様々な病原微生物の性状(感染源・感染経路・病原因子・病態・臨床像)を説明できる。 2. 感染および発症のメカニズムを理解し説明できる。 3. 感染症を予防するための方法や対策について説明できる。 4. 生体の免疫現象について理解し説明できる。		◎										
	栄養学	2			2					1) 福祉に従事する立場から、栄養について学ぶことの意義を説明できる。 2) 福祉に従事する立場から、どのような栄養指導を実践すべきかを説明できる。 3) 学童期、思春期、青年期の生活習慣や食行動上の問題点を説明できる。 4) 健康や栄養に関連する業種である医師、看護師、保健師、管理栄養士・栄養士と一緒に福祉の立場から健康や栄養改善のために協力すべき必要性を説明できる。		◎			○							
	生理学	2			2					1. 福祉学科の専門分野と関連が深い、神経系の働きについての基礎的事項を説明できる。 2. 対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の制御の仕組みについて、基本的な説明ができるようになる。 3. 人間の生命維持のために必要な、免疫細胞の働き、血液循環、呼吸、尿生成の基本的な仕組みについて説明できる。		◎										
教 育 科 保 健 ・ 医 療 開 係 科 目	解剖学	2		2						1. 人体の構造を学ぶための共通の言葉、解剖学用語を理解し、説明できる。 2. 人体がどのような働きをもち、いかに機能的に配置されているかを理解し、説明できる。 3. 人体を構成する細胞、組織、器官の多様性が一つの受容体から始まることを理解し、説明できる。 4. 多器官がそれぞれどのような働きを持っているか、他の器官、器官系との関連を理解し、説明できる。 5. 人体各部、各器官の形態を発生、成長、発育、加齢ならびに機能と関連づけて理解し、説明できる。 6. ヒトの健康、疾病などを理解する上での基礎知識を修得できる。		◎										
	運動処方論	2				2				1) 健康や体力を保持・増進する上での運動の重要性を説明できる 2) 発育・発達に応じた遊び計画を作成できる 3) 高齢者の自立を促す運動を計画できる 4) 正常で安全な妊娠・出産のための運動を計画できる				○							◎	
	学校保健 I	2		2						1. 学校保健活動の全体構想について理解できる。 2. 今日の教育が目指す姿並びに学校保健の役割について理解できる。 3. 学校保健安全法を中心に関連法規について理解できる。 4. 児童生徒の今日的な健康課題について理解できる。 5. 発育発達における身体活動の意義やその進め方について理解できる。 6. 健康診断、感染症とその予防の概要について理解できる。 7. 学校安全、学校給食(食育)、性教育、エイズ教育の進め方について理解できる。 8. 学校保健活動の推進を図る保健主事・養護教諭の職務内容について理解できる。 9. 保健学習、保健指導の内容及び進め方について理解できる。 10. 学校保健委員の役割と進め方について理解できる。	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	
	学校保健 II	2		2						1. 子どもの発育・発達・社会環境の視点から養護教諭の歴史と免許法を理解し、養護教諭の職務と専門性について説明できる。 2. 児童・生徒等の健康課題や学校教育目標に即した保健経営計画を立案し、運営方法、評価法について説明できる。 3. 学校保健安全法等を踏まえた学校保健・安全における養護教諭の役割について説明できる。 4. 学校における健康観察、学校感染症予防と対策、学校感染症、慢性疾患児童・生徒の健康管理、保健指導、保健広報活動、学校環境衛生等について説明できる。 5. 子どものストレスの現状と学校健康相談の進め方について説明できる。 6. 組織的活動の意義と方法を理解し、学校内外の関係者の連携の方法について説明できる。	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	地域保健学 I	2				2				1. 地域の特徴と地域保健の特徴について説明できる。 2. 地域保健活動と、行政機関におけるそれぞれの役割について説明できる。 3. 危機管理と救急医療の体制と内容について説明できる。 4. 災害医療やへき地医療の目的や活動内容について説明できる。 5. 無煙環境づくりにおける現状と課題について、自分の考えを持つことができる。	◎	○	○		○							
	地域保健学 II	2					2			1. 日本における現代社会の健康問題を理解し、保健・医療の動向について説明できる。 2. 子どもの健康問題と問題解決の支援方法のポイントを説明できる。 (1) 諸問題の捉え方と関わり方(傾聴、受容、共感、アセスメント、対応) (2) 自分らしい子どもの現象と対応 3. 子どもの健康問題解決の支援方法の特徴(対象・場面・方法)について、養護教諭の視点から説明できる。 4. 事例分析・ロールプレイを通じて、健康相談における養護教諭の具体的な対応を説明できる。 5. 健康相談におけるアセスメント、危機介入(対応介入)、評価等のプロセスとその記録について説明できる。 6. 養護教諭が行う実践研究の意義と進め方について説明できる。	◎	○	○		○							
	看護学	4			4						1. 人間理解を深め、看護の視点から健康の考え方を説明できる。 2. 看護の概念と看護職について説明できる。 3. 看護職・養護教諭の職業倫理について説明できる。 4. ナイチンゲールの功績、国際赤十字とアンリ・デュナン功績とV.ヘンダーソン等の看護理論を理解し、看護の歴史的發展を説明できる。 5. 機能別看護、チームワーク、プライマリ・ナーシング等を理解し、看護ケアシステムを説明できる。 6. 看護過程・看護評価のポイントを理解できる。 7. 看護理論の基盤として、プレゼンテーションすることができる。 8. 小児看護・思春期看護の基礎知識を理解し、説明できる。 9. 応急手当の基本を習得し、個別の対応について説明できる。 10. 呼吸器・消化器疾患、耳鼻咽喉疾患などの看護について説明できる。 11. 障がいのある児童生徒等への理解と看護について説明できる。 12. 養護診断の考え方や進め方について説明できる。 13. フィジカルアセスメントを理解し、適切な内科的・外科的処置・対応について説明できる。 14. 事故の態様の重傷度、緊急度を判断し、適切な処置内容を説明できる。	◎	○	○		○						
基礎看護技術	2				2					1. 学校現場における健康と環境の関係が理解でき、維持するための方法について説明できる。 2. フィジカルアセスメントの必要性が理解でき、正しい方法で実施できる。 3. 身体面における緊急事態発生時の対応が理解でき、応急処置を実施できる。 4. 学校現場で遭遇することの多い疾患に対する治療方法と、援助するための方法を説明できる。	◎	○									◎	







# 栄養学科

## 学位授与の方針 (DP)

栄養学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士(栄養学)の学位を授与します。

- DP 1【知識・理解】
  - 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
  - 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識および技術を修得している。
- DP 2【思考・判断】
  - 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。
- DP 3【関心・意欲】
  - 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心をもち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲をもっている。
- DP 4【態度】
  - 4-1) 専門職業人としての職業倫理をもっている。
  - 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身についている。
- DP 5【技能・表現】
  - 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

## 教育課程編成・実施の方針 (CP)

### 【専門教育科目】

1. 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。(1年次、2年次)
2. 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨床実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。(3年次)
3. 将来の進路に合わせた、より深い知識・技術を身につけるため、「食と健康分野」「実践栄養分野」「臨床栄養分野」の科目を修得する。さらに、卒業研究、実践活動、演習を通して、4年間の学びの集大成を行い、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力、企画立案能力を養う。(4年次)
4. 栄養士・管理栄養士教育課程の卒業要件に加え、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状の取得に関する科目を設定する。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、フードスペシャリスト資格および栄養教諭一種免許状が取得できる。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
社会・環境と健康	公衆衛生学Ⅰ	2			2									○	○	○	○			
	公衆衛生学Ⅱ	2			2									○	○	○	○			
	健康管理概論	2				2								○	○	○	○			
	健康情報処理論	2			2									○	○					
	社会福祉概説	2			2									○		○	○			
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	看護学	2				2								○	○	○				
	解剖生理学	2	2											○					○	
	応用生理学	2		2										○					○	
	生化学Ⅰ	2		2										○	○	○	○			
	生化学Ⅱ	2			2									○	○	○	○			
	病理基礎医学	2		2										○	○	○			○	
	疾病診断治療学Ⅰ	2			2									○	○	○			○	
	疾病診断治療学Ⅱ	2			2									○	○	○			○	



専 門 教 育 科 目	科 目	必 修 単 位	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次										
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1										
専 門 教 育 科 目	臨床基礎医学実習	1						3											
	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2		2								◎	○					
		基礎栄養学Ⅱ	2		2								◎	○					
	応用栄養学	栄養学概説	2		2								◎	○	○				
		応用栄養学Ⅰ	2			2							◎	○	○	○		○	
		応用栄養学Ⅱ	2			2							◎	○	○	○		○	
		運動・環境と栄養	2					2					○	◎	○				
		栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2				2						○	◎	○	○	○	○
			栄養教育論Ⅱ	2				2						○	○	◎	○	○	○
	栄養カウンセリング論		2					2					○	○	◎	○	○	○	
	臨床栄養学	臨床栄養管理学	2				2						○	○	◎	○			
		栄養治療学Ⅰ	2				2						◎	○	○	○	○	○	
		栄養治療学Ⅱ	2					2					◎	○	○	○	○	○	
		臨床栄養活動論	1						1				○	○	◎	○	○	○	
		介護概論	1						1				○	○	◎	○			
公衆栄養学		公衆栄養学Ⅰ	2				2						◎	○	○	○			
	公衆栄養学Ⅱ	2					2					○	◎	○					
	地域栄養活動論	2					2					○	○	◎	○	○	○		
	給食経営管理論	給食計画論	2				2						◎	○	○				
給食経営管理論		2					2					◎	○	○					



科 目	必修	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
		1年次		2年次		3年次		4年次										
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
		1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1										
実験・実習	栄養学実習	1			3						◎	○	○					
	応用栄養学実習	1				3					○	◎	○	○	○	○	○	
	栄養教育論実習Ⅰ	1					3				○	○	○	○	○	◎	○	
	栄養教育論実習Ⅱ	1						3			○	○	○	○	○	○	◎	
	臨床栄養学実習	1							3								◎	
	公衆栄養学実習	1								3			◎	○	○	○	○	
	給食経営管理実習Ⅰ	1									3							○
	給食経営管理実習Ⅱ	1										3						○
総合演習	総合演習Ⅰ	1																◎
	総合演習Ⅱ	1																◎
臨地実習	臨地実習Ⅰ	1																◎
	臨地実習Ⅱ	2																◎
	臨地実習Ⅲ	1																◎
食と健康分野	調理師論	2	2															◎
	薬事法規概論	2	2															◎
	食品機能特論	2																◎
実践栄養分野	実践調理・調理科学演習	1																◎
	運動栄養演習(スポーツ栄養含む)	1																◎
	国際栄養論	2																◎

科 目	必 選	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
		1年次		2年次		3年次		4年次										
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
		修	択															
期・専門研究       その他	臨床栄養管理演習	1							2	1. 疾患・病態および栄養状態を把握し、各種疾患の治療のための栄養ケア計画を立てることができる。 2. 身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理できる。 3. 栄養管理ソフトを用いて、常食献立から治療食・療養食へ展開できる。		○	○	○		○	◎	
	ゲノム科学臨床応用論	2							2	1. ゲノムの概念、ゲノム解析技術、遺伝子診断技術について説明できる。 2. バイオインフォマティクスの現状と将来像について説明できる。 3. 遺伝子診断による疾病の発症予想技術について説明できる。 4. 遺伝子診断結果の疾病治療への応用と実践について説明できる。 5. 遺伝子診断結果の栄養治療への応用と実践について説明できる。			○	◎			○	
	科学英語文献購読	1							1	1. 英語で書かれた栄養に関する学術論文を読むことができる。 2. 栄養系大学院入試の英語科目に対応することができる。 3. 英語圏の海外留学において、栄養系の科目を履修できる能力を習得する。							◎	
	卒業研究	4						4	4	4	1. 研究テーマについて、情報の収集、問題の設定、研究方法を検討し、研究計画を立てることができる。 2. 研究計画に従って研究を遂行し、研究結果を他人に分かりやすい形に整理することができる。 3. 研究に関連する参考文献から情報を収集し、自己の結果と客観的に比較・考察することができる。 4. 研究の成果を、科学的な研究論文としてまとめることができる。	○	○	○	○	○	○	○
	実践活動	2						2	2	1. セミのテーマについて、調査計画・研究計画を立案することができる。 2. セミのテーマについて、文献検索や資料の収集をすることができる。 3. セミのテーマの専門的な内容について理解し、客観的な考察を加えることができる。	○	○	○	○	○	○	○	
	管理栄養士演習Ⅰ	2							2	2	1. 管理栄養士国家試験教科「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」および「基礎栄養学」の分野のポイントを説明できる。		◎	○				
	管理栄養士演習Ⅱ	2							2	2	1. 管理栄養士国家試験教科「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」および「給食経営管理論」の分野のポイントを説明できる。		◎	○				





科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP			
			1年次		2年次		3年次		4年次															
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
英 語 学 科 目	リーディングⅣ	2				2							◎		○						○			
	英語学概論Ⅰ	2				2							◎		○							○		
	英語学概論Ⅱ	2				2							◎		○							○		
	ライティング基礎	2				2							◎		○							○		
	パラグラフ・ライティング	2				2							◎		○							○		
	エッセー・ライティング	2						2					○	◎	○	○						○	○	
	英語文学Ⅰ	2				2							○	○		◎						○	○	
	英語文学Ⅱ	2				2							○	○		◎						○	○	
英 語 通 訳 演 習	英語通訳演習Ⅰ	2					2						○	◎	○	○						○	○	
	英語通訳演習Ⅱ	2						2					○	◎	○	○							○	○
専 門 教 育 科 目	欧米文化交流研修A	2	2										○	○		○							◎	
	アジア文化交流研修A	2	2										○	○		○							◎	
	欧米文化交流研修B	2	2										○	○		○							◎	
	アジア文化交流研修B	2	2										○	○		○							◎	
	メディア英語Ⅰ	2	2										◎			○	○					○	○	
	メディア英語Ⅱ	2					2						○					○	○				◎	○
	時事英語入門	2						2					○	◎	○	○							○	○
	応用時事英語	2						2					○	◎	○	○							○	○
国 際 理 解 科 目	異文化間コミュニケーションⅠ	2				2										◎		○					○	
	異文化間コミュニケーションⅡ	2					2									○		○					◎	
	エリア・スタディⅠ	2				2							○	○		◎	○	○	○	○	○	○	○	
	エリア・スタディⅡ	2				2							○	○		◎	○	○	○	○	○	○	○	
	国際経済入門	2				2							◎		○	○							○	
	国際関係入門	2				2							◎		○	○							○	
	日本の歴史と文化地理Ⅰ	2				2							○	○		◎							○	
	日本の歴史と文化地理Ⅱ	2				2										◎							○	
文化人類学	2						2								◎							○		



# 英語学科

## 学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】  
 1-1) 国際的視野と地域的視野によって行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。  
 1-2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。
- DP2【思考・判断】  
 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。
- DP3【関心・意欲】  
 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
- DP4【態度】  
 4-1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。  
 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。  
 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。
- DP5【技能・表現】  
 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。  
 5-2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基礎科目」「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を配置する。
- 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。
- 「専門基礎科目」には、異文化理解を深め、英語・日本(語)などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。
- 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。
- 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
- 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。
- キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科 目	選 択	高 級 英 語 (英 一 語 種 免 取)	中 級 英 語 (英 二 語 種 免 取)	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2		
				1年次		2年次		3年次		4年次													
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
教職概論	2	2	2			2							◎								○		
教育原理	2	2	2			2							◎									○	
教育心理学	2	2	2			2							◎									○	○
教育社会学	2	2	2			2							◎		○							○	
教育課程論	2	2	2			2							◎									○	
特別活動論	2	2	2					2					◎									○	
教育方法論	2	2	2			2							○									◎	
英語教科教育法Ⅰ	2	2	2			2							◎									○	
英語教科教育法Ⅱ	2	2	2			2							◎									○	
英語教科教育法Ⅲ	2	2	2			2			2													◎	○
英語教科教育法Ⅳ	2	2	2			2			2													◎	○
英語教科教育法Ⅴ	2	2	2			2			2						○							◎	○
道徳教育の理論と実践	2	2	2			2								○								◎	○
生徒・進路指導論	2	2	2			2								○								◎	○
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2			2								○								◎	○
事前及び事後の指導	1	1	1																				◎
教育実習Ⅰ	2	2	2																			○	○
教育実習Ⅱ	4	4	4																			○	◎

教職実践演習（中・高）	2	2	2							2	<p>1. 教職課程での学びを再点検し、自らに残された課題を探ることができる。</p> <p>2. 教師として求められる資質・能力を具体的に学校備面に結び付けて理解し伸ばすことができる。</p> <p>3. 信頼される学校づくりに貢献する教師の在り方を理解し具体的な方策を探ることができる。</p> <p>4. 生徒理解に基づいた教育活動を展開することができる。</p> <p>5. 授業の計画、実施、評価に関する知識と実践力を伸ばすことができる。</p> <p>6. 教師として自律的な成長に必要なリソースを探り活用することができる。</p>	○				○			○	◎	
-------------	---	---	---	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	--	--	---	--	--	---	---	--











# 助産別科

## 学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】  
 1-1) 助産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。  
 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。  
 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。
- DP2【思考・判断】  
 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。  
 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。
- DP3【関心・意欲】  
 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。
- DP4【態度】  
 4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。
- DP5【技能・表現】  
 5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

## 教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
- 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核として、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした助産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、性と生殖に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
- 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力、態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 週授業時間数		到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
				1-1	1-2		1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1				
助産の理論領域 基礎科目	基礎助産学Ⅰ	1	1		2	1. 助産の基本概念と助産に関連する理論の概要について説明できる。 2. 日本における助産師の責務と役割、法的立場づけについて説明できる。 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライフの基本となる考え方について説明できる。 4. 我が国の母子保健の動向と課題を他国と対比させて説明できる。 5. 助産実践の倫理的課題を説明できる。 6. 助産過程の特徴と展開について説明できる。 7. 助産師教育や助産の方向性について考えることができる。	◎	○	○							
	基礎助産学Ⅱ	1	1		2	1. 男女のリプロダクションに関する形態・機能、性と生殖に関連する疾患、その対応について説明できる。 2. リプロダクションに必要な医療機器の操作や検査およびデータの判読ができる。	◎	○		○	○					
	母子の心理・社会学	1	1		2	1. 思春期・青年期の身体的変化および心理的課題を説明できる。 2. 思春期・青年期に特徴的な障害や問題を説明できる。 3. 成人期の身体的変化や心理的課題を説明できる。 4. 成人期に特徴的な問題を理解し、対応を説明できる。 5. 中年期・老年期の身体的変化や心理的課題を説明できる。 6. 中年期・老年期に特有の問題を理解し、対応を説明できる。 7. マタニティサイクルにおける母・父の心理的特徴が説明できる。 8. 母子関係・父子関係を築くための親役割について説明できる。	○	◎		○	○	○				
	助産学研究演習	1	1		2	4	1. 助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基本的方法を説明できる。 2. 文献のクリティックができる。 3. 自己の継続受け持ち妊産婦のケアについて研究的に取り組み、文献をもとに考察を深め発表できる。	○				○	○	◎		
	母子栄養学	1	1		2	1. マタニティサイクル各期における健康教育に必要な母子の栄養と食事について説明することができる。 2. 妊娠前と乳児期の妊娠栄養について説明することができる。 3. 幼児期・思春期・更年期における健康教育に必要な栄養管理について説明できる。	○	◎		○	○					
	キリスト教と生命倫理	1	1		2	2	1. キリスト教的人間観と世界観を理解し説明できる。 2. 生殖医療・胎児診断と生命科学に関連づけられた生命倫理に対する考え方を理解し、説明できる。 3. 産後相談・不妊相談におけるカウンセリングの対応を説明できる。 4. 産前における子どもの生死や障害の受容に対応する親の支援について説明できる。 5. 倫理的見地からみた助産師の役割の重要性を説明できる。	○						◎		
	助産実践領域 専門科目	助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	1		4	1. 助産師に必要な妊婦の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 妊娠期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 妊娠期のフィジカルアセスメントに基づき、妊婦に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度ができる。	○			◎			○	○	
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	1		4	1. 産婦の形態機能に基づいた産婦の身体的・心理的特徴を説明することができる。 2. 分娩期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 分娩期のフィジカルアセスメントに基づき、分娩進行状態に応じた産婦に必要なケアおよび健康教育を実施するための知識・技術・態度を習得することができる。	○			◎			○	○			
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	1		4	1. 助産師に必要な産婦の健康診査と援助の目的・必要性・意義を説明することができる。 2. 産褥期のフィジカルアセスメントを実施するための知識・技術・態度を習得することができる。 3. 産褥期のフィジカルアセスメントに基づき、産婦に必要なケアや健康教育を実施するための知識・技術・態度ができる。	○			◎			○	○			
助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	1		2	1. 新生児・乳幼児の形態・機能的特性と適応過程について説明できる。 2. 新生児・乳児のフィジカルアセスメントに必要な診察法とその実際を説明できる。 3. 新生児・乳児に起こる異常と疾患およびその対応法を説明できる。 4. 出生直後の新生児のケアおよび養生法を実施できる。 5. ハイリスク新生児の病態について説明できる。 6. NICUにおける児や家族への支援について説明できる。 7. 乳幼児の成長・発達過程について説明できる。	○			◎			○	○			
助産診断・ケア学Ⅴ(围産期のハイリスク)	1	1		2	1. 围産期(妊娠・分娩・産褥各期)の異常および疾患、その対応について説明できる。 2. フィジカルアセスメントに基づく緊急時の対応法や、他職種との連携を説明できる。 3. 围産期に活用する医療機器の操作や検査・データの判読ができる。 4. 围産期(妊娠・分娩・産褥各期)の異常および疾患をもつ対象のケアを説明できる。	○				◎					○	

# 助産別科

## 学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】  
 1-1) 周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得している。  
 1-2) ライフサイクル各期の女性の健康支援に関する知識を修得している。  
 1-3) 国際化社会における母子保健向上に関する知識を修得している。
- DP2【思考・判断】  
 2-1) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断ができる。  
 2-2) 妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常からの逸脱の判断ができる。
- DP3【関心・意欲】  
 3-1) 性と生殖に関する女性を取り巻く課題に積極的に取り組むことができる。
- DP4【態度】  
 4-1) 母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができる。
- DP5【技能・表現】  
 5-1) 基礎的な助産ケアを安全・安楽に実施できる。

## 教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 助産別科のカリキュラムは、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目の幅広い理解につなげる「支援科目」及び助産実践力を育成する「実習」で構成する。
- 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルスの考え方を核として、性と生殖に関する女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得すると共に、社会の動向・ニーズの変化に関心をもち、性と生殖に関する女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得すると共に、妊娠・出産・産褥及び新生児各時期において正常経過の判断・正常逸脱に関する判断ができ、助産師としての責任ある態度・助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援に関する幅広い知識を修得する。
- 実習科目では、学内で学んだ知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、母子保健チームの一員として責任を持つ行動ができると共に、対象に応じた基礎的な助産実践を安全・安楽に提供できる能力を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 週授業時間数		到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
				1-1	1-2		1-3	2-1	2-2	3-1	4-1	5-1		
専門科目	助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	2	2		4	4		◎		○	○	○	○	○
	助産診断・ケア学VII(助産過程演習)	2	2		2	2	○		◎	○	○	○	○	○
	女性の健康支援論	1	1		2		○	◎	○			○		
	助産管理学	2	2		2	4	◎					○		
	地域母子保健	1	1		4		○	◎	○			○		
支援科目	総合看護学	1		1	2		○				◎			
	母性の運動科学	1	1		2		◎							
	子育て支援論	1		1	2		◎				○	○		
実習	助産学基礎実習	4	4			実習				○	○	○	○	◎
	助産学実習Ⅰ(正常)	5	5			実習				○	○	○	○	◎
	助産学実習Ⅱ(正常逸脱)	3	3			実習				○	○	○	○	◎
	助産管理実習	1	1			実習				○	○	○	○	◎

2018年度 短大一般教育カリキュラムマップ

		単位数		短期大学の学位授与の方針(DP)					
				DPI【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
		必修	選択	1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
キリスト教教育	キリスト教Ⅰ	2		◎					
	キリスト教Ⅱ	2		◎					
初年次教育	初年次セミナー	1		◎					
女性と健康	運動と健康	1		◎					○
	スポーツ実技		1	○					◎
	女性とマナー		*1	◎				○	
	女性史		*1	◎					
	共生社会とジェンダー		*1	◎					
	女性と装いの文化		*1	◎				○	
基礎教養	心理学		2	◎					
	文学		2	◎					
	日本国憲法		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎				○	
	経済学入門		2	◎					
	生活の中の環境学		2	◎					
アカデミックスキル	メディアリテラシー		2	◎					○
	情報処理入門		2	◎					○
	英会話入門		1	◎					○
	こどもとふれあう英会話Ⅰ		1	◎	○				○
	こどもとふれあう英会話Ⅱ		1	◎	○				○
	ハングル入門		1	◎					○
	日本語表現法		1	◎					○
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎					
	北九州の技と文化		1	◎					
キャリア形成支援	キャリア開発		1	◎					
	実践キャリアプランニング		1	◎					

※ \*は1単位以上必修選択

# 保育科

## 学位授与の方針（DP）

保育科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に短期大学士（保育学）の学位を授与します。

### DP1【知識・理解】

- 1-1) キリスト教精神を基盤に、教養と知識を身につけている。
- 1-2) 保育者に必要な専門分野の学問知識を修得している。

### DP2【思考・判断】

- 2-1) 個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる。

### DP3【関心・意欲】

- 3-1) 子どものあそびや子ども文化などに興味をもつ。
- 3-2) 子どもや保護者を含めた現代的課題に関心をもち、保育者としての社会的な役割を意識する。

### DP4【態度】

- 4-1) 保育者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 自らの保育実践を振り返り、さらに質の高い保育を探索する力を有している。

### DP5【技能・表現】

- 5-1) コミュニケーション能力やマナーを身につけ、他者と協働することができる。
- 5-2) 保育内容をふまえた基本的な表現技術を身につけている。
- 5-3) 子どもや保護者への適切なあそびや養護技術などを実施することができる。

## 教育課程編成・実施の方針（CP）

保育科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

- 保育科の教育課程は、保育の専門家を育成することを目的とし、短期大学士として必要な教養を身につける一般教育と保育者に必要な知識・技術を養うための専門教育で構成する。
- 一般教育は、「キリスト教教育」、「初年次教育」、「女性と健康」、「基礎教養科目」、「アカデミックスキル」、「地域創生」、「キャリア形成支援」の科目群で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である「感恩率(上)」を理解することができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。
- 専門教育は、「保育の本質・目的に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法に関する科目」、「保育の表現技術」および実習関連科目で構成する。「保育の本質・目的に関する科目」では、児童福祉や保育者としての本質に関する科目で構成している。「保育の対象の理解に関する科目」では、子どもの心身の発達に資する知識を身につける。「保育の内容・方法に関する科目」では、キリスト教教育を含めて保育内容について幅広い知識と実践を学ぶ。「保育の表現技術」に関する科目では、子どもの表現を広くとらえながら遊びを促していく技術の修得を目指す。各科目群は、保育者に必要な知識・技術を養成するため、段階的に進化する。さらに、実習関連科目では保育者として必要な総合的な力を養成する。
- 保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要な科目を別途資格免許に係る必修科目として配置している。また、多様化する社会のニーズに対応するためにピアヘルパー資格、こども音楽療育士、認定ベビーシッター資格が取得できる選択科目を配置している。

授 業 科 目	必 選	修 積	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
			1年次		2年次												
			前期	後期	前期	後期											
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3	
専 門 教 育 科 目	保育者論	2		2													
	保育原理	2			2												
	教育原理	2				2											
	児童家庭福祉	2		2													
	社会福祉	2			2												
	社会的養護	2				2											
	相談援助	1				2											
	保育の心理学Ⅰ	2			2												
	保育の心理学Ⅱ	1				2											
	臨床心理学(カウンセリング含む)	2					2										
保 育 科 目	子どもの保健Ⅰ	2				2											
	子どもの保健Ⅱ	2					2										



授業科目	必修	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
		1年次		2年次												
		前期	後期	前期	後期											
子どもの保健演習	1				2			○								◎
子どもの食と栄養	2				4 (4)		◎									○
家庭支援論	2				2					◎						○
保育・教育課程論	2			2									○			◎
保育内容総論	1		2				○									◎
保育内容「健康」	1		2				○									◎
保育内容「環境」	1		2				○									◎
保育内容「言葉」	1		2				○									◎
保育内容「表現(造形・絵画表現)」	1		2				○									◎
保育内容「表現(身体・音楽表現)」	1		2				○									◎
保育内容「人間関係」	1		2				○									◎
保育実践の理解と方法	1		2					◎					○			
保育メディア演習	1		2				○						◎			
保育相談支援	1		2							○						◎
障がい児保育 I	1		2				◎	○								
障がい児保育 II	1		2					○								◎
乳児保育 I	1		2				◎	○								
乳児保育 II	1		2					○								◎

授 業 科 目	必 選	週 授 業 時 間 数				到 達 目 標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P		
		1 年 次		2 年 次															
		前 期	後 期	前 期	後 期														
保育の内容・方法に関する科目	社会的養護内容	1			2	1. 社会的養護における児童の権利擁護について理解する。 2. 施設養護及び他の社会的養護の機能や役割について具体的に学び理解する。 3. 個々の児童に応じた自立支援計画・養護計画の作成の意味と留意点を理解する。 4. 援助（基本的な生活・親子関係調整・学校や地域との関係調整・自己実現等）の方法や技術、内容を理解する。 5. 援助者としての倫理・人間性と専門性の向上に努めることを具体的に学び理解をする。 6. 社会的養護を通して家庭支援・児童家庭福祉や地域福祉について理解や認識を深める。			◎		○						○		
	キリスト教保育	2		2		1. キリスト教保育の歴史を知り、その思想について理解できる。 2. キリスト教保育における行事の概要を知り、その意義について理解できる。 3. キリスト教保育における礼拝・祈り・賛美・聖話・聖書の劇等について理解できる。 4. キリスト教保育の基本理念について理解できる。 5. キリスト教保育の根幹にある子ども観・人間観について考えることができる。	◎										○		
	こども音楽療育概論	2		2		1. 音楽療法に関する基本的考えを理解できる。 2. 対象児の発達とそれに応じた音楽活動について理解できる。		◎									○	○	
	こども音楽療育演習	1			2	1. コミュニケーションを育てる療育プログラムを立案できる。 2. 障がい別、形態に応じて適切に工夫した楽器の使い方や弾き歌い、即興伴奏ができる。 3. 模擬セッションの実施とその評価ができる。											◎	○	
	こども音楽療育実習	1			5日間	1. 実際に子ども達（障がいをもった子ども達）とのグループ体験や音楽活動へ参加や観察実習、体験実習を通して音楽を活動の実践方法を身につけることができる。												◎	○
	在宅保育	2			2	1. 在宅保育の意義や役割について知る。 2. 家庭訪問保育者として必要な知識・技能について理解できる。												○	◎
専 門 教 育 科 目 教科に関する科目	音楽の基礎	1	2			1. 発声法・呼吸法を実践し、声をスムーズに出すことができる。 2. 音楽理論を学ぶことで、楽譜を読むことができる。 3. 正確な音程をとることができる。 4. 音楽における基本的な知識や技能を理解し、実践できる。		○										◎	
	こどものうたあそび	1		2		1. 曲中で音程を正しくとることができる。 2. 自ら曲想を考え、表現しながら歌唱することができる。 3. 保育現場における音楽的活動を展開するために必要な知識や技能を習得できる。												◎	
	こどものためのピアノⅠ	1	2			1. 手の構えや運指法などの基本を習得する。 2. 『バイエルピアノ教則本』の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。												◎	
	こどものためのピアノⅡ	1		2		1. 『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』を教材として演奏技術を培い、それらの弾き語りができるようになる。 2. 『バイエルピアノ教則本』の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。												◎	
	こどものうたと伴奏法Ⅰ	1			2	1. 『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』の約30曲の弾き語り出来るようになる。 2. 『バイエルピアノ教則本』の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。												◎	
	こどものうたと伴奏法Ⅱ	1			2	1. 主に『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』を教材として演奏技術を培い、それらの弾き語り出来るようになる。												◎	
	器楽アンサンブル	1			2	1. 簡易打楽器の取扱い・奏法を理解できる。 2. リズム譜の理解と読譜力を向上させリズム譜の作成をすることができる。 3. 様々な楽器を使ってアンサンブルすることができる。 4. 子ども達への器楽アンサンブルの指導ができる基本的な技術を身につけることができる。												◎	
	こどもの造形あそび	1	2			1. 様々な素材、道具に慣れ親しみ、豊かな表現ができる。 2. 保育者としての総合的な知識や技能、実践的な指導力を身につけることができる。												◎	
	こどもの運動あそび	1		2		1. 幼児体育の果たしている意義と役割を理解できる。 2. 子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達について理解できる。 3. 幼児の体育指導に必要な技術・技能について理解できる。												◎	
	こども文化	1	2			1. 子どもの成長と文化のかかわりについて説明できる。 2. さまざまな子どもの文化財についての基本を説明できる。 3. 子どもを取り巻く文化に関心をもち、主体的に課題発表に取り組む。				◎								○	
教科に関する科目	◇ こどもの発達理解とあそび	1			2	1. 乳幼児期の心身の発達と遊びのかかわりについて説明できる。 2. 子どもの遊びや活動の展開を予想し、保育者の援助について記述できる。 3. 発達にそくした遊びのレパートリーを増やし、保育現場で活用できる。			○	◎								○	
	こどもの生活とあそび	1			2	1. 生活科の教科目標、評価の観点及びその趣旨を説明できる。 2. 生活科の学習内容と具体的活動について知り、遊びの事例や教材について説明できる。 3. 幼稚園・保育所(園)と、小学校との連携について説明できる。				◎								○	
	こどもの文学と物語	1			2	1. 子どもの精神世界を見つめ、子どもに関する日常の疑問にも答えることができる。 2. 感じたこと、考えたことなどイメージしたことを自分らしいやり方で表現することができる。		◎	○										
	保育総合表現	2			4	1. 音楽表現、身体表現、言語表現、造形表現を統合した表現活動を体験できる。 2. 演技力、歌唱力、創作力を磨き、子どもに相応しい表現力を体得できる。 3. チームワーク力、コミュニケーション力を養い、共同作業において自らの関わり方を検証できる。								○	○		◎		

授 業 科 目	必 選	修 単	週 授 業 時 間 数				到 達 目 標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P		
			1 年 次		2 年 次															
			前 期	後 期	前 期	後 期														
総合演習	◇	こども学基礎演習	2		2	2														
		こども学特別演習	2				2	2												
		保育・教職実践演習(幼稚園)	2					2												
専 門 教 育 実 習	教育実習	教育実習指導	1																	
		教育実習Ⅰ	1		1	週														
		教育実習Ⅱ	1				1	週												
専 門 教 育 実 習	教育実習	教育実習Ⅲ	2					2	週											
		保育実習指導Ⅰ	2		2	2														
		保育実習指導Ⅱ	1				1	1												
専 門 教 育 実 習	保育実習	保育実習指導Ⅲ	1				1	1												
		保育所実習Ⅰ	2					10	日											
		保育所実習Ⅱ	2						10	日										
専 門 教 育 実 習	施設実習	施設実習Ⅰ	2						10	日										
		施設実習Ⅱ	2							10	日									